

総務委員会会議録（要点筆記）

令和8年8月4日（火）
午後1時00分 開議

○委員長（田中嵩久）

ただいまから、総務委員会を開きます。

協議題1「閉会中の調査事項について」を行います。

本日は、講師をお招きした勉強会を行います。

本日の予定は、先生からご講義をいただいた後、質疑の時間をとります。また、勉強会終了後は、内容の振り返りを行いたいと思います。

講師の先生は、日本福祉大学 社会福祉学部 講師 菊池 遼 先生です。

菊池先生には、「大規模地震を見据えた災害対応体制の強化」と題して、ご講義をいただきます。今年度、総務委員会では、防災対策について調査研究を行っています。特に、能登半島地震での事例として、事前に防災担当課では、災害時に各課が対応するための計画を立てていましたが、実際には、各課がどう対応していいのかわからず、防災担当に問い合わせが集中して、初動が遅れてしまうということがありました。

マニュアルだけでは埋められないことがあるとは思いますが、BCPや地域防災計画などいろいろなものを作っている中で、それを活かし、機能させていくためにはどうしたら良いか考えています。

先生には、いろいろな制度や仕組みがこれまでに大きく変わっていると思いますので、初動対応を含め、これからどう動いていくべきか、ご教授いただきたいと思います。

しばらく休憩します。

午後1時03分 休憩
午後2時29分 再開

○委員長（田中嵩久）

委員会を再開します。

総務委員会副委員長 沢田清よりご挨拶させていただきます。

○副委員長（沢田清）

先生から、知多半島全体で考えなくてはならないということで、人間関係や、自治体同士の連携が重要だと感じました。先生の講義を受けて、それぞれの委員が感じたことを今後、委員会で議論を行い、提言をしていきたいと思っています。本日は、ありがとうございました。

○委員長（田中嵩久）

これをもちまして、勉強会を終了します。菊池先生、ありがとうございました。

しばらく休憩します。

午前2時30分 休憩
午後2時40分 再開

○委員長（田中嵩久）

委員会を再開します。

先ほどの勉強会について意見交換を行います。

ご意見がある方は、お願いします。

○有留麻由委員

熊本地震から1週間経ち、この後、初動で良かったこと、悪かったことが出てくると思いますが、熊本の教訓を活かしていきたいと思います。また、地震が起きたときには自宅が壊れない限り、在宅避難の方が多くなっており、1週間でどれぐらい市が把握できるのかが大事ではないかと思います。デジタルの方法も含めて、どういう風に対応できるか、考えたいと思いました。

○坂井美穂委員

全体感が見えているキーパーソンが大事というお話に共感しました。

半田市受援計画では、発災1日目から1ヶ月目までに各部署がやることが細かく分かれており、それぞれが何を行うのか詳細に書かれています。

半田市の職員がどういう役割を持って動くのか、どういう人達が支援に入ってくるのかというところを把握したうえで、1日目から1ヶ月目までの間で、どこが弱いのかを確認していく必要があるのではないかと思います。

○加藤美幸委員

委員会として、今日の話だけではなく、視察先の事例も踏まえて、こういった提言をしたらいいかというところをしっかりと勉強していく必要があると思いました。

○新美保博委員

ケースバイケースで、自分達が思っているタイミングと実際に起きることは全然違うことがあって、発災時から2、3日の話と、1週間、1ヶ月では全然状況が違ってきます。マニュアルやルールを作っていても、自分たちがその場で災害を受けたときにそれが実行できるかは難しいです。そういったことも考えると、視点を変えて、自分の身は自分で守るということにも、着目していった方が良いのではないかと思います。

○副委員長（沢田清）

今のうちに準備していることを改めて整理しておく必要があると思いました。キーパーソンについても、非常に大事だと思いましたが、その人が被災したら、何もできないということにならないように、人を育てていくことが必要だと思いました。

○澤田勝委員

災害福祉と地域福祉という観点で話がありましたが、大きな災害が起きても、平時での支援体制が整っていると、対応ができるということは重要な取り組みだと思いました。

また、支援物資や資機材という視点においても、改めて見直しを含めて考えていく必要があると感じました。

○鈴木英華委員

アセスメントシートを使い、各世帯の細かい情報を把握しておくことは、大事である一方で、個人情報問題も出てくるため、どう対応していくかを考えていく必要があると思いました。

○委員長（田中嵩久）

今回の熊本県や前回の石川県の地震は、近隣の県をまたいだ災害ではありませんでした。

南海トラフは、四国にも影響が出るぐらい広域で発生します。半田市に国や県の支援がどのタイミングで、どれぐらいの支援が来るのかが見えない中で、半田市としてできることを素早く対応できるような体制を整えていく必要があると思います。

ただ、実際は、ケースバイケースでルールを作っていても、どうしようもないところもあるということも認識して、整理していかなければいけません。

○総務部長（伊藤奈美）

今回の地震でも愛知県から派遣要請が即座にきています。ただ、受け入れ態勢が整っていなかったり、交通機関もまだ寸断されていたり、行きたくても行けないという状況がありました。

そうしたときに、応援に来てくれる職員の宿泊場所を確保することも受援力を高める一つの手法だと思いました。例えば、市内のビジネスホテルと連携協定を結んで、災害が起きたときに空いている部屋を提供してもらえるような仕組みを作っておくのも一つの手だと思いましたので、内部で共有したいと思います。

○防災監（竹内健）

半田市では、今後、災害ケースマネジメントとして、どんなことをやっていけるのか、協議して取り組んでいく予定です。また、熊本地震があったときに八代市の知り合いの職員に連絡して、物資を送ろうとしましたが、受け入れる体制が整っていないので、辞退しますという返事がありました。いろんな支援が届く中でも、自分たちでしっかり解決していかなければいけない部分が大きいと感じました。今回の視察先でも、参考になるところをしっかりと吸収して、今後の半田市の取り組みに活かしていきたいと思います。

○委員長（田中嵩久）

他に何かありましたらお願いします。

【「なし」との声あり】

ないようですので、意見交換は終了します。

続きまして、協議題2「その他」について行います。

その他、委員から何かありませんか。

【「なし」との声あり】

ないようですので、この件は、これで終了します。

以上で、本日予定しておりました議事は終了しました。

次回の委員会は8月24日（月）午前10時からです。

これで総務委員会を終わります。

午後3時00分 散会